



岐阜県退職公務員連盟

可児支部広報

令和7年度 第6号 12月23日



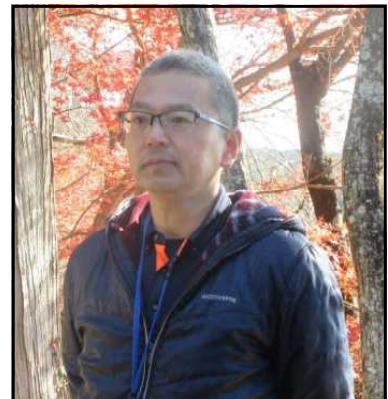
み の かね やま じょう あと 国史跡 美濃金山城跡を見学

可児支部研修会を、12月6日(土)に右記のように実施しました。見学場所は、可児市の国史跡美濃金山城跡です。

指導講師として、久々利城跡の見学でお世話になった可児市歴史資産課の松田先生を招聘いたしました。

- ◆ 9:00 広見「鈴川」集合 車3台に乗車し出発
- ◆ 9:30 金山城跡に着き見学
- ◆ 11:00 見学を終え、出発
- ◆ 11:20 広見「鈴川」に到着
- ◆ 11:30 親睦会

年(和暦)	国史跡 美濃金山城跡の出来事
1537(天文6)	斎藤大納言妙春(正義)が烏峰城をつくる
1548(天文17)	正義が久々利城主に討たれ、土岐が留守代に
1565(永禄8)	織田信長が城を奪取し、森可成を城主とする 森可成が金山城とする
1570(元亀元)	宇佐山城の戦いで可成が死去し、長可が城主に
1582(天正10)	長可が川中島に移り、弟の乱丸が城主に 本能寺の変で乱丸が死去し、再び長可が城主に
1584(天正12)	小牧・長久手の戦いで長可が死去し、弟の忠政が城主に
1600(慶長5)	忠政が川中島に移り、犬山城主石川光吉が領有
1601(慶長6)	破城
1615(元和元)	金山村は幕府領から尾張藩領になる
1656(明暦2)	金山村は兼山村と改められた
1953(昭和28)	城跡一帯が国有地から兼山町に払い下げ
1963(昭和38)	美濃金山城跡が兼山町の町史跡に指定
1967(昭和42)	美濃金山城跡が岐阜県史跡に指定
2005(平成17)	可児市が兼山町と合併
2006(平成18)	可児市が美濃金山城跡の発掘調査を開始
2013(平成25)	美濃金山城跡が国史跡に指定



▲指導講師の松田先生
分かりやすく、丁寧に説明していただき、よく理解できました。ありがとうございました。



▲令和7年度可児支部研修会記念写真 (出丸、美濃金山城おまもりたいの建立した石碑前にて)

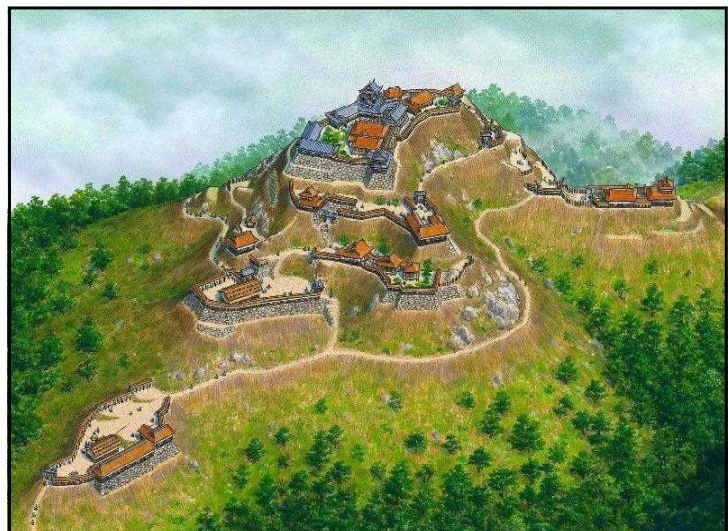
美濃金山城跡

金山城は、標高約277メートルの古城山の山頂に築かれ、天守台を山頂に配置し、本丸を中心に二の丸、三の丸、南腰曲輪、西腰曲輪が連郭式に配され、天守台北東側に東腰曲輪と称する一郭があります。

石垣・礎石建物・瓦の使用などに織田信長・豊臣秀吉の時代に当たる織豊系城郭の特徴が見られます。

関ヶ原の合戦後、1601年頃に破城（城の一部を壊し、城の機能をなくすこと）されましたが、破城後ほとんど改変のない状態で約400年間保たれています。このような織豊系城郭の特徴が全て見られ、破城されたまま良好な状態で保存されている城郭は東海地方ではあまり類例がありません。

平成18年から令和2年にかけて、市教育委員会が第9次までにおよぶ発掘調査を行い、詳細な実態が明確になってきました。



見学の様子



▲出丸に集合



▲出丸から可児市を望む



▲杖が準備



▲急な段を登る



▲三の丸



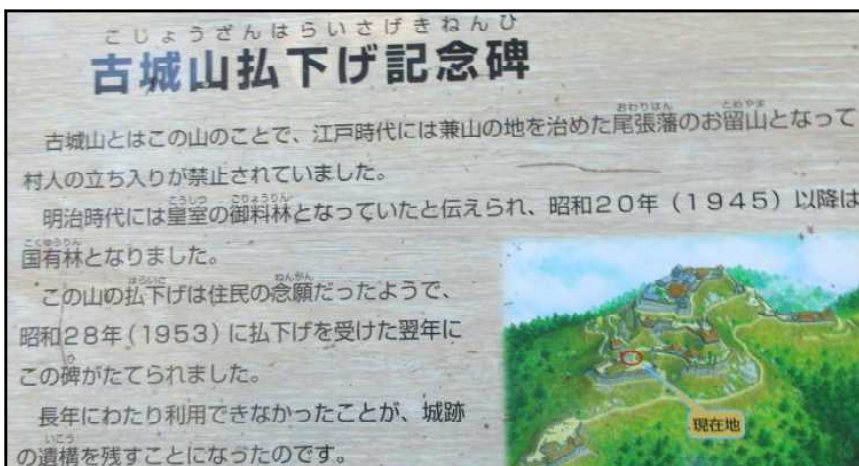
▲二の丸西面石垣



▲破城の説明



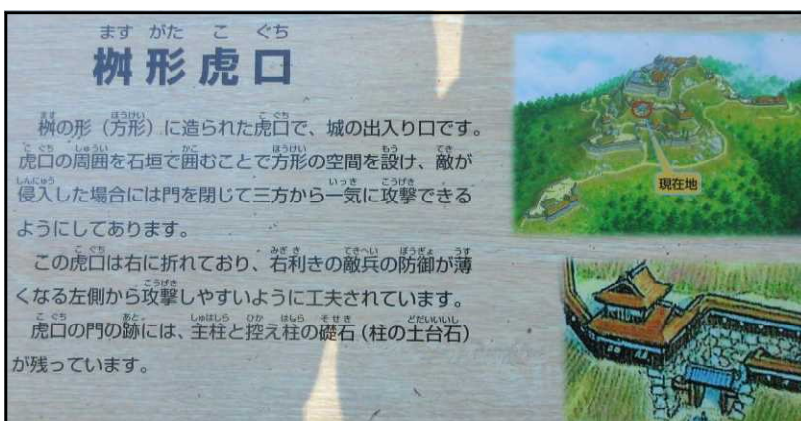
▲「破城の痕跡」説明板



▲説明板



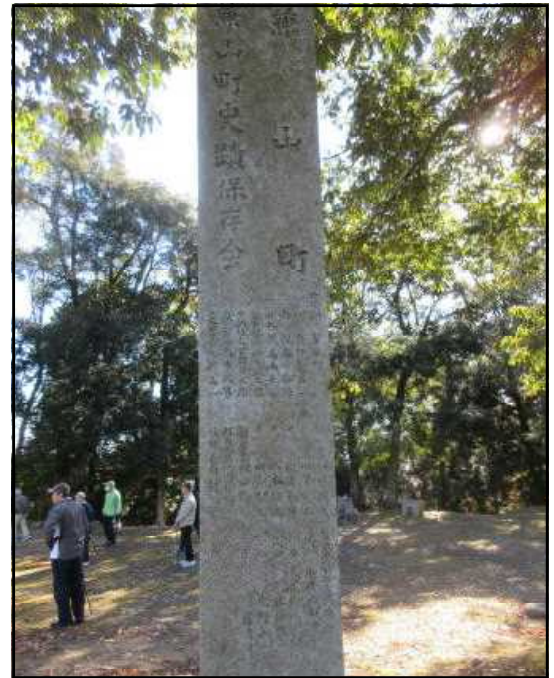
▲古城山掘下記念碑



▲説明板



▲枡形虎口

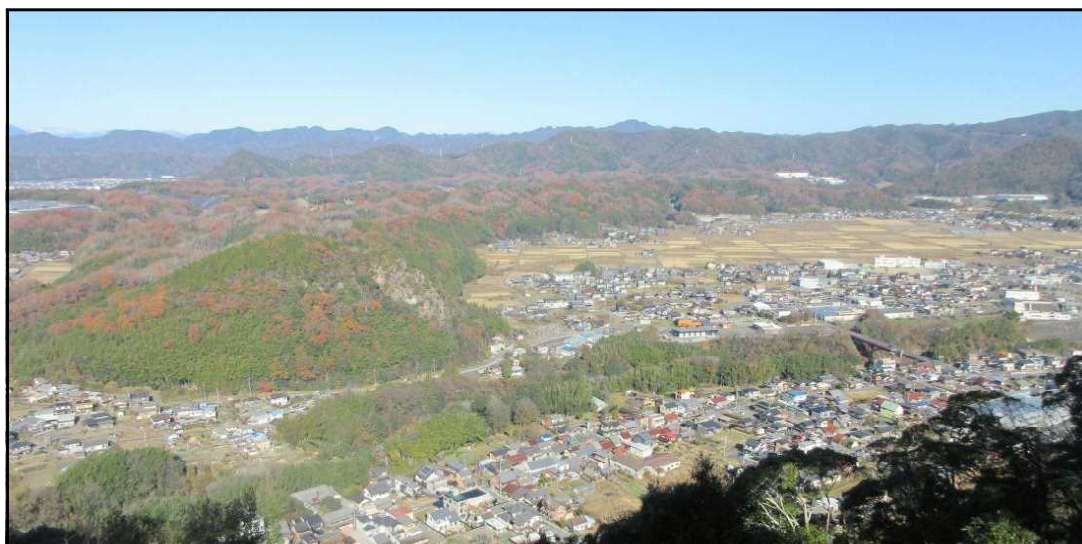
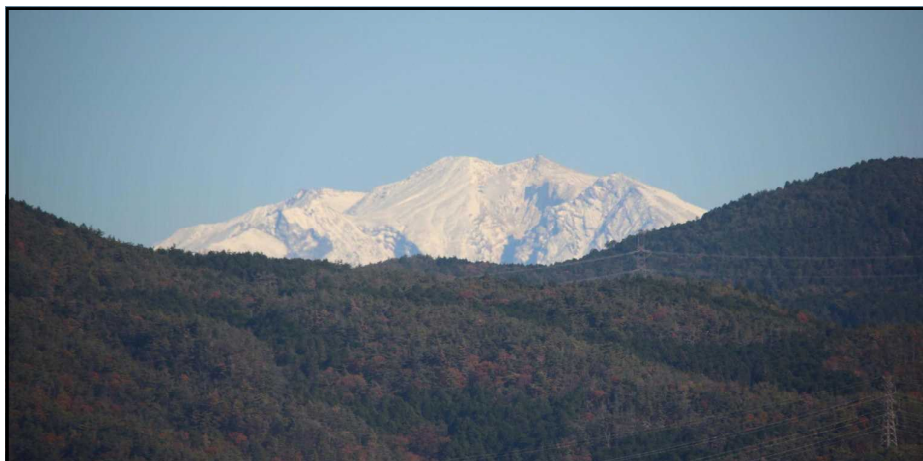


▲本丸跡



▲本丸跡にて記念写真

本丸跡からの眺望



可児支部研修会は、参加者全員が大満足となる会となり、大成功でした。計画立案され、配車等を担当された皆様に、心より感謝申し上げます。ありがとうございました。
今後も、会員の要望をより大切に、大満足となる研修会を実施していきたいと思ひます。
ご支援・ご協力よろしくお願い申し上げます。

国指定史跡

美濃金山城―興亡の歴史―

室町末期天文六年（一五七）齊藤道三の命をうけ、その猶子齊藤大納言正義はこの山頂標高三三メートルに築城、烏ヶ峰城と称し、中井氏の庄の地名を金山村と改めた。

豪勇無双近隣に武威をふるた青藤氏も同十七年（五八）久々利城主土変三河守に討たれた正義時に三十三才。

時移り永祿八年（五五）織田信長は東濃經略の拠点として森三左衛門尉可成を封じ金山城主となり平石とした。以来森可成・長可忠・政父子三代の居城として戦国波乱の歴史を彩った。すなわち可成は元龜元年（五七）九月十日近江守佐山で浅井朝倉軍と戦い討死四十七才、これより先長男可隆も四月十五日朝倉攻めに初陣・敦賀手筒山城で討死している十九才。天正十年（六二）三月には甲州武田征伐の途中、信長は金山城に泊っている。同年六月二日未明、明智光秀謀反による本能寺の變で信長四十九才とともに討死した可成三男・蘭丸・長定・岩村城主・秀石十九才、四男・坊丸・長隆十五才、五男・力丸・長氏十三才の三兄弟はともに金山城で出生、信長の側近近習として仕えていた。

二代城主三男長可はこのほか武勇にすぐれ鬼武藏といわれた。岩村城主五万石も兼ね信州海津城主でもあった。伊勢長島一向揆征伐、武田征伐等に権力をたてた。可成守を創建城の政築や城下町づくりにも意を用ひ、文正十二年（一五四）四月九日長父の合戦において討死二十と云、僅々十五年ほどの間に父子六人もの悲報に接した可成守、妙向尼の悲數のはたが偲ばれる。

三井城主六角忠政、金山城で出生、長可の跡目を継ぎ十五で七万石を領し、豊臣秀吉に
た金城の整備、拓充を手がけたが九州、小田原等に転戦、智略の将と重んぜられた。

慶長五年(一六〇〇)徳川家康の命により信州海津城より上野をに移封、金山村々
金山城は大城主石川備前守光吉の領有となる。天守諸櫓等一切をとりこわし木曾
川を下して大城郭の増築修葺に使われたという。

忠政は慶長六年（二〇三）美作国十六万五千石に国替となり以後十三年かけて津山城を完成現在の岡山県津山市の基をつくた。

青藤・森西氏を通じて、森城僅か四十数年であつた戦国動亂のせに名將として武威発揚もめづましい一方で城郭整備「六音市」をはじめとする商業振興など城下町づくりにも力をつくした。

(「金山記大成」による)

可児市

歩く 見る

国史跡
美濃金山城跡絵図

景觀

美濃金山城跡は、近隣の城や北を流れる木曾川、兼山のまちを見渡せる高所に築造されています。本丸跡の標高は276m、城下町とは約170mの比高差があります。平成25年に国の史跡に指定されました。

発掘調査と

平成18年度から令和元年度にかけて9回の発掘調査をおこないました。これまでの調査で、天守や門に使用された瓦などの出土遺物や建物礎石が見つかりました。また、茶碗や素焼きの皿・すり鉢などの陶器や古銭、製鉄に使用されたと思われる羽口や石製の容器も出土しています。



礎石……安定した建物を建てるため、柱の下に据えた石
虎口……城の出入口
曲輪……石垣等で囲まれた平坦な面で建物等があった場所

【登城のポイント】

- ❌ …危険なため、立ち入り禁止です。
- ❖ 野外散策に適した服装で見学しましょう。
(運動靴、タオル、水筒、夏季は虫除けスプレーなど)
- ❖ 石垣から距離をとった上で、落石等に注意して見学しましょう。
- ❖ 危険な箇所もありますので、足元に注意してください。
- ❖ 出丸(P)から本丸(頂上)までの所要時間は約30分です。

- ① 三の丸

三の丸

北・西・南の三方向に石垣が築かれています。礎石から建物があったことがわかります。岩盤を加工して虎口が造られています。



- 2 二の丸西面石垣

この石垣は加工していない石を積む野面積みという積み方で造られています。隙間に間詰め石が詰められています。



- 3 二の丸

二の丸
礎石の形状から、渡り廊下のある
建物があつたと考えられます。南側
と西側に石垣があります。



- 4 ます ぬた こ ぐも
枅形虎口

三方向を石垣に囲まれた虎口で、門の礎石が見られます。左側が本柱の礎石、右側が控柱の礎石になります。



- 5 東腰曲輪／南腰曲輪／西腰曲輪

東腰曲輪は井戸跡があったといわれる場所です。ここでは破城の際に捨てたと思われる礎石や瓦が見られました。南腰曲輪、西腰曲輪では礎石が見つかっています。



- 6 ほん 本丸

天守があったと想定される場所です。本丸を囲む斜面には石垣が見られ、南側に虎口があります。多くの礎石から御殿のような大きな建物があったと思われます。



- 7 左近屋敷

野左近という武将の屋敷があったとされる場所です。北側に二段の石垣が築かれています。破城の際に石垣の天端(一番端の石)の石や隅石を壊した状態が保っています。



- ### 3 米蔵

濃金山城跡の米蔵があったといわれる場所です。北側に壮大な石垣が見られます。この場所から三の丸へ登ったと思われる

